



HSMニュース

ウェブサイトリニューアルしてみた！

この度日生シipp管理株式会社のWebサイトをリニューアルいたしました。
記載内容を充実させるとともに、より見やすく、分かりやすいように構成やデザインを刷新しました。

また、基本的な条件を入力することで、管理費の概算をかんたんに試算できる「船舶管理費 かんたんシミュレーション」など新規コンテンツも追加しております。

日生シipp管理(株): <https://www.hsm-jpn.com/>

近年船主様の売船が続き、また高船価や用船マーケットなど取り巻く環境に起因し新規のT/C案件が難しい状況からも弊社の管理船の隻数も激減してしまいましたが、この機会に管理の質向上の為の施策に取り組んでおり、逆に以前よりも人員も増加しております。

現在余力も十分でやる気満々ですので、弊社の船舶管理にご興味持って頂けますと大変幸甚でございます。

今後も様々なことにチャレンジして参りますので、ぜひ一度弊社ウェブサイトものぞいてみて下さい！

RightShip検査支援サービスをはじめます！

RIGHTSHIP

この度、当社グループ会社の(株)HSMにて、RightShip検査の支援サービスをはじめることとなりました！

近年RightShipの影響はますます大きくなってきております。

皆さまご既承の通り、2025年より段階的に対象船齢が引き下げられ現在は12歳以上となっております。
そしてこの7月1日からは11歳以上となり、来年2027年1月1日からはとうとう10歳以上となってしまいます。

船主・管理会社の皆さまにおいては、検査の準備や検査の対応、検査後の是正措置対応、そしてまた次回の検査準備、とライトシップに関する対応だけでかなりの労力や時間を費やすことになり、大変ご苦勞されていることと思われます。

そこで、その様な状況も踏まえ、このRightShip検査支援サービスを開始することにいたしました。

RightShip本番前の事前検査(Pre-RightShip Inspection)と、是正処置計画作成支援(CAP Advisory)の2つのモジュールで、致命的欠陥の排除と運用の実効性向上に寄与します。

ご興味のある方はぜひ同社ウェブサイト(<https://www.hsmjp.co.jp/rightship>)をチェックしてみてください。

ウェブサイトのお問い合わせフォームからお問い合わせもできますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

今後も皆様の船舶管理の“現場を支える”サービスを提供するため、サービスの拡充を図ってまいりますので、引き続きご愛顧賜りますようお願い申し上げます。





このコーナーでは散歩の似合わない男「桑村」がその重い腰ならぬ重い体を上げ、日生やその周辺を散歩！魅力的なスポット・お店などを紹介していきます。

出張機会も多い今日この頃。今回も、番外編でお送りします。

なお、今回は最後にちょっとした「号外」もあります…出会いあれば別れあり…

くわ散歩 第25回:今治・伯方島のご当地で楽しむランチ 2店舗をご紹介します！

皆さんこんにちは！くわ散歩では、弊社周辺や近隣、また出張先などのオススメのお店や、まだ知られていない穴場など、様々なスポットを紹介いたします。

今回は愛媛県今治市・伯方島にて立ち寄ったお店をご紹介します。伯方島といえば「伯方の塩」で有名ですが、しまなみ海道沿いに位置し、海運に携わる方にとっても馴染みのある地域ではないでしょうか。

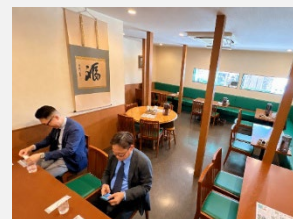
さんわ 伯方島本店



まずは、伯方島で長く営業されている「さんわ 伯方島本店」。(住所:愛媛県今治市伯方町木浦甲1650-1)

店前にも大きく「伯方の塩ラーメン」と書かれており、まずはお店の外から誘われてしまいます。

今回は、伯方の塩ラーメンと伊予の貝飯のセット「貝飯セット」を注文しました。



伯方の塩ラーメンは、あっさり系でありながらも、その中にしっかり旨味があり、飽きない味です。もう何度か訪問しているお店ですが、気付けばまた食べに来てしまいます。

そして、個人的にかなり良かったのが貝飯。初めて食べた時は、サイドメニューかな位で思っていたのですが、食べて驚き。出汁と貝の旨味がかなり強く、脇役と思ったら主役級。これだけでどんぶり一杯の量を食いたいと思うメニューです。



お好み焼き さくら



続いては、伯方島のお好み焼き店「さくら」。(住所:愛媛県今治市伯方町伊方甲669-3)

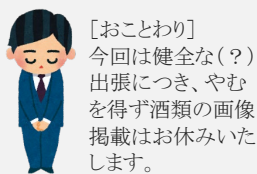
親しみを感じる外観も良い雰囲気ですが、店内は喫茶店のような落ち着いた雰囲気の中に、お好み焼きの鉄板があり目を引きまします。メニューを見るとお好み焼きの他に、お酒が合いそうなおつまみメニューが多数。後ろ髪を引かれつつ、この日は関西風お好み焼き「ミックス」を注文しました。



焼いた状態で運ばれたお好み焼きを鉄板にON。冷めずに食べられるし、ソースなどが焦げる香りがまたそそられます。

食べてみると、外はこんがり、中はふわっとした焼き上がり。ソースだけではなく、生地やキャベツの旨味もあり、食べる手が止まらず、あっという間に食べてしまいました。

ちなみに、メニューには“映え”そうな直径36cmのお好み焼き「さくら焼」なるものもあり、見た目も含めて楽しめそうです。



【おことわり】
今回は健全な(?)
出張につき、やむ
を得ず酒類の画像
掲載はお休みに
いたします。

今回は、伯方島のお店をご紹介いたしました。出張先では仕事を中心となりますが、こうした美味しい地元のお店との出会いもまた楽しみの一つです。

どちらのお店も、近くにあったら頻繁に通ってしまいそうなお店でした。特に…貝飯、また食べたいなあ…

それでは、次回の「くわ散歩」でまたお会いしましょう！

さすがに1日で食べた訳ではございません…



くわ散歩 号外

日生の台湾料理店「豊源」閉店

弊社の最寄り、日生駅真横の台湾料理店「豊源」。なんと5月初めに閉店してしまいました。「くわ散歩」でもそのうち掲載しようと思っていたのですが、“いつでも行ける”と思っていた結果、まさかの…閉店とは…いつまでも、あると思うな 親と金と豊源…長い間ありがとうございました。





ピックアップ！

ここでは、私共が目にして気になった記事やニュース等を紹介させていただきます。
海運に関する事や海運に関係なくても興味がわく様な内容を色々紹介していきたいと思ます！

こんにちは！

先日は素面で書いたらとても時間が掛かったので、今日はほろ酔い気分での記事を書いております。

今回もいつも通り気になった記事をピックアップしてご紹介させていただきます。

皆さんはどの様に感じるでしょうか？

【挑戦に必要なのは「覚悟」ではなく、「習慣」と「人」】

=====
今日始めなかったら、明日はもっと始めにくくなる

「何歳からでも挑戦はできる」という言葉がありますが、実際にこの年齢になってくると、よくよく分かるのですが、45歳からいきなり挑戦するのは難しすぎる。

ここから先は更に難易度が高くなるはずで、それこそこれまで「挑戦」というものから逃げ続けてきた人が50歳からいきなり挑戦するのは、メチャクチャ難しい。

口では調子よく「俺はやるぞ！」「俺は今、こんなことを構想している！」と言いながら、一生始めない人とかいるじゃないですか？

彼らは「覚悟が足りていない」と思っているのかもしれませんが。

ただ、「挑戦」に必要なのは「覚悟」じゃなくて、「習慣」なのだと思います。

挑戦すればするほど挑戦しやすくなるし、挑戦を避ければ避けるほど、贅肉のようなものがついて、姿勢が曲がってしまい、寝転ぶ癖がついて、挑戦しにくくなる。

今日始めなかったら、明日はもっと始めにくくなる。

計画通りに一年後にいきなり始められるようなものじゃない。

そして、挑戦に必要なのは「習慣」と、もう1つ。「人」だと思います。

手を貸してくれる人がいないと、形にならない。何をするにも「人」が絶対に必要なのですが、「やるぞ、やるぞ」と言いながら1ヶ月過ぎて何もやっていない人からは、「なんだよ、結局やらないのかよ」と徐々に人が離れていってしまう。「将来のビジネスパートナー候補」として見た時に、「いつまで経っても始めない人」に自分の人生の時間を託そうとは思わない。

つまり、今日始めない人は「人」から見限られてしまうから、余計に始められなくなる。

覚悟を振り絞ったところで、まわりに人がいなければ、その叫び声は空を切るだけ。

「何歳からでも挑戦はできる」というのは、口で言うほど簡単な話じゃなくて、挑戦に必要な『習慣』と『人』を手放してしまった人は、なかなか挑戦することはできない。

「今日始めなかったら、明日はもっと始めにくくなる」ということを忘れないでいたいと思ます。

=====
ということで、如何でしたでしょうか？

やっぱりチャレンジする事が大事ですよね。何も考えずに何でもかんでも取り敢えずやったらいい、という訳ではないですが、やってみないと分からないと思ますので、まずは始めてみるというのは大事なことだと思います。

私自身、やらなくて後悔したことや遅過ぎてタイミングを逸してしまった事も多々あります。後悔しかないですね。

まずは始めてみて、そこからはトライアル&エラーの繰り返しだと思います。

「やってしまった後悔は段々小さくなるけど、やらなかった後悔は段々大きくなる。」

今や私の座右の銘となっております。

因みに、現在の私は、贅肉が付き過ぎて、物理的に動きづらいという問題を抱えています。

座敷は厳しい、掘りごたつ最高！

海運基礎知識 「海運市況について」

今回は、「海運市況」について取り上げてみたいと思います。

海運業界では「市況(Market)」という言葉が日常的に使われます。「マーケットがよくない」「マーケットが落ちてる」といった表現を耳にしますが、海運市況とは一体何を指しているのでしょうか。

実は私もあまり詳しい方ではないのですが、大変重要なことでもありますので、私自身改めて確認しながら整理してみたいと思います。

「海運市況」って何？

- ・海運市況とは、海上輸送における貨物量(需要)と船の数(供給・船腹量)のバランスによって変動する運賃や用船料の取引状況のことです。
- ・荷物を運びたい需要と利用可能な船腹供給の“船の需給バランス”によって、運賃や傭船料は大きく変動します。
- ・例えば、鉄鉱石や石炭の輸送需要が急増しても、すぐに船の数は増えません。その結果、船不足となり運賃が上昇します。逆に、世界経済の減速や荷動き低迷で貨物量が減少すると、船が余って運賃は下落します。
- ・海運市況は船主、オペレーター、荷主、金融機関、造船所など多くの関係者の意思決定に影響を与える重要な指標となります。

「海運市場」の分類

海運市場は主に以下のように分類されます。

(1) ドライバルク市場(Dry Bulk Market)

鉄鉱石、石炭、穀物、ボーキサイトなどのばら積み貨物を輸送する市場です。

主な船種: Capesize / Panamax / Supramax / Handysize

世界経済や製鉄業、発電需要などの影響を受けやすい特徴があります。

(2) タンカー市場(Tanker Market)

原油や石油製品、ケミカルなどの液体貨物を輸送する市場です。

主な船種: VLCC / Suezmax / Aframax / MR Tanker

原油価格、産油国の政策、地政学リスクなどが市況に大きく影響します。

(3) コンテナ市場(Container Market)

定期航路でコンテナ貨物を輸送する市場です。

主な船種: Feeder Container Ship / Panamax Container Ship / Ultra Large Container Ship (ULCS)

消費財や工業製品の国際貿易動向が市況を左右します。

(4) ガス船市場(Gas Carrier Market)

LNGやLPGを輸送する市場です。

主な船種: LNG Carrier / LPG Carrier

エネルギー需要や長期契約の影響を受けることが多く、他市場と異なる動きを示すことがあります。

「代表的な市況指数」は？

海運市場では、現在の市況を客観的に把握するため、様々な指数が利用されています。

(1) BDI(Baltic Dry Index)

ドライバルク市場を代表する指数です。英国のBaltic Exchangeが公表しており、主要航路の運賃をもとに算出されます。鉄鉱石・石炭・穀物といったドライバルク貨物の運賃指数で、世界経済の動きを敏感に反映します。

さらに、船型別に見る場合は以下の指数が使われます。

Capesize: BCI / Panamax: BPI / Supramax: BSI / Handysize: BHSI

船型ごとの需給状況を把握する際に活用されます。

(2) SCFI(Shanghai Containerized Freight Index)

コンテナ市場を代表する指数です。中国のShanghai Shipping Exchangeが公表しており、上海発主要航路のスポット運賃を反映しています。スポット、つまり“足元の市況感”を示すため、市場の変動を敏感に反映します。コンテナ運賃の変動を把握する際の代表的な指標として広く利用されています。

(3) CCFI(China Containerized Freight Index)

SCFIと同じくコンテナ市場の代表的な指数ですが、SCFIがスポット運賃中心であるのに対し、CCFIは長期契約運賃も含めた市場全体の動向を示す傾向があります。

(4) Worldscale(WS)

タンカー市場で広く利用される運賃指標です。

タンカー運賃は「WS100」を基準として表示され、例えばWS150であれば基準運賃の150%、WS80であれば80%を意味します。

タンカー市場では「現在の中東－日本航路はWS〇〇」といった形で日常的に使用されています。

以上、非常に簡単ではありましたが、「海運市況」について概要を説明させて頂きました。

海運市況は、海上輸送サービスの需給バランスを表すものであり、船主やオペレーター、荷主の収益に大きな影響を与え海運業界全体に大きな影響を与えます。

今さらですが、海運業界は市況変動が大きくなりやすい産業であり、海運市況は日々変化していますが、その背景にある「需要」と「供給」のバランスを意識することで、市場の動きをより深く理解できるようになると思います。

以上